

子どもたちに安全な未来を！

放射能から子どもを守ろう！高崎の会 一年間余の歩み

事務局長 野口 祐美



東日本大震災とその後の福島第一原発の爆破事故後、震災支援活動や放射能測定などに取り組みながら考えた。「これでいいのだろうか？」「もっとやるべきことがあるんじゃないか？」「様々な意見があって、何から手をつけたらいいだろうか」

一昨年（2010年）の11月、未曾有に原子力事故後の対応に、様々試行錯誤が行われている時期でした。とにかく集まろう…。それが、高崎の会の出発点でした。

高崎の会のスタート

思いつくままに声をかけあい集まってみたものの、「まず集会和デモを」「宣伝を」「独自の組織は要らないのでは」など、思っていることは様々でした。話し合う中で、「国や県が『安全神話』を振りまくなかで、正しい知識を学ぶことが必要ではないか？」「子どもたちを放射能から守ることが大切。一年や二年ではなく、長期にわたる取り組みになる」「集い話し合える緩やかな組織にしよう」といった合意が形成されてきました。また名称も「放射能から子どもを守ろう！高崎の会」とすることを確認しました。

第一歩は、まず放射能の正しい知識を学ば

うと、鈴木隆高崎中央病院院長を講師に学習会を開催。（はるな生協組合員ふれあい会館）一昨年（2010年）の12月です。ここからスタートしました。

代表にはおひさま飯塚保育園保育士の神戸かおりさんが就任。事務局長を私（はるな生協職員）が務め、若手保育士、保育園OB、新婦人や生協関係者、労組、県議などで事務局を構成し運営にあたっています。会のチラシは保育士の皆さんが日ごろの得意技を發揮して作成、毎回手作りで暖かみのあるお知らせが好評です。

2011年1月、じっくり思いを語ろうと言う事で、「座談会」を開催。（おひさま倉賀

野保育園)そこでの意見を持って高崎市との懇談会も行いました。

さよなら原発群馬アクションへ参加

3月のさよなら原発群馬アクション IN 高崎(城址公園)には、会として3つのブースを設営しました。現在使用している会のマークも、このときつくりました。

5月20日は当時話題になっていた福島大学作成の放射線副読本の学習会を、執筆者の後藤忍先生をお招きして開催しました。(高崎市北公民館)教育関係者にもたくさん集まっていたいただきました。

6月6日、これも議論の多かった震災瓦礫受け入れについて、県民健康科学大の倉石政彦先生をお招きして学習会を行いました。(はるな生協組合員ふれあい会館)地元に関心になる研究者がいることがわかり、励みになりました。



東京の集会へバス3台で

7月16日東京で大規模な集会があるということで、バスを連ねて参加しようと呼びかけを発表。結果はバス3台の参加申し込みがあり、意気揚々と集会に参加しました。

それに先立ち、7月14日は脱原発前橋アクションが計画されました。ここでも会のブースを設け、活動交流を行いました。

8月31日は映画「内部被ばくを生き抜く」(鎌仲ひとみ監督)の上映会。(はるな生協組合員ふれあい会館)話し合いも予定したのですが、時間がなくて映画を見るだけで終わっ

てしまいました。

9月23日脱原発アクション IN 高崎が高崎健康福祉大学で開催。脱原発の市民グループの交流スペースに参加しました。安中の会、群馬町の会にも声をかけて三つの会がブースをならべました。



10月11日は再度県民健康科学大の倉石先生をお願いして除染についての学習会を開催しました。(おひさま倉賀野保育園)外部被ばくよりも内部被ばくが課題であることがわかりました。

移動放射能測定所 IN 高崎を実施

10月15日~11月10日、スペクトロメーターを借りて、移動放射能測定所 IN 高崎を実施。(はるな生協組合員ふれあい会館)市民から多くの検体が持ち込まれ、高崎を中心に85検体の放射能を測定しました。結果、米は概ね不検出でしたが、土は100ベクレル前後に汚染されていることが明らかになりました。また、10000ベクレルを超える物質(側溝の苔など)が存在することもわかりました。

12月8日鈴木隆高崎中央病院院長を招いて、チェルノブイリの視察報告会を開催。写真も多く、医師としての説明もあり大変参考になりました。

今後の計画は、1月20日、東京のきょうどう歯科の藤野健正先生をお招きし、乳歯のストロンチウム測定、乳歯保存運動の学習会。1月30日は、高崎市との懇談を計画しています。2月には再度移動放射能測定所 IN 高

崎を実施します。

集まろう、学ぼう、話し合おうと一年以上続けてきました。間もなく3・11から2年。まだまだ私達の運動は続きそうです。

子どもの抜けた
乳歯を保存しよう!

乳歯保存運動の学習会を開催します

日時 2013年1月20日(日)
14:00～16:00

会場 高崎市総合福祉センター 会議室4
TEL (370) 2822 高崎市幸町115-1

お話し 藤野 健正 氏 (キョウどう歯科新八柱院長)

参加費 500円

福島原発事故による放射性物質の子歯に心も痛めているみはさん。
その中で、ストロンチウム90は、歯や骨に蓄積しやすく、毒性が強く、
半減期が長いと言われてます。
乳歯のストロンチウム90を測ることで、子どもへの健康の影響や
放射性物質の子歯蓄積状況を測れる事ができます。
今回は、東京でこの運動の中心にいる藤野先生をお呼びしたいと思います。

放射能から子どもを守る高崎の会
高崎市新開町498-1
はらばし生協総合夏ふれあい会館内
総合活動部受付
TEL (370) 27162
FAX (370) 2944

最近のチラシより

手をつなごう

高崎の会代表・神戸 かおり

私の勤めている保育園では、どろんこあそび、さんぽ、山登り、畑仕事など、土や山や木の葉や風を感じながらあそび、その中で、子ども達は自然からたくさんのことをもらって、感性豊かに、たくましく成長していきました。

しかし、震災・原発事故後、見えない放射能から子ども達を守るために、今まで大切にしていた保育ができなくなってしまったり、規制しなくてはならなくなりました。毎年、幼児クラスが登っていた山は、放射能を計ると、驚くほど数値が高く、登るのをや

めなくてはなりません。乳児クラスでは、雨の後の水たまりあそびも、大好きだった落ち葉かけごっこもさせてやれなくなりました。畑で作った芋や大根も、山のドドメやビワやシイの実も「放射能を調べてからね」と食べさせてやれなくなり、子ども達の残念そうな顔を見る度に、本当に悲しく、悔しく、どうしようもない気持ちになりました。給食も食品は安全か否かに、今までとは違った面で、常に注意しなくてはならなくなっていました。

私たち大人のせいで、大事な自然を汚し、おもいきり遊べなくしてしまったこと、安心して何でも食べられなくなってしまったこと、これからずっと放射能の被害を受けなくてはならなくなってしまったこと…子ども達に本当に申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

そして、保育園の子ども達、自分の子ども達だけでなく、群馬県中の子ども達、もっとも過酷な被害を受けている福島県の子ども達のことを考えると、これから私たち大人は、何をどうしていけばいいのかを考えざるを得ませんでした。

そんな思いの中で、この会の代表を引き受けることになりました。それは、私の力は小さいけれど、いろんな人とつながることで、子ども達の未来のためにもっとできることがあると思ったからです。そして、この会での学びや活動を通じて、子ども達を守りたい、子ども達の未来を変えたいという人たちとつながることができ、やれること、やらなくてはならないことがわかってきました。

これからも、たくさんの人とつながり、また会同士ネットワークをつくることで、もっとたくさんのことができるのではないかと考えています。小さな力の一人一人が、手をつなげば、大きなことができることを信じて。

